

---

# 世界に一つだけの馬

サダコレ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

世界に一つだけの馬

### 【Nコード】

N9470F

### 【作者名】

サダコレ

### 【あらすじ】

これも支離滅裂になってしまう法則

**（前書き）**

イボ、イボイボ、カラオケ、ウガ！

「最近鼻くそがうまくとれんよサダコレくん。」

おばあちゃんが僕にそう囁いた。

「きっと季節のせいなんじゃないかなあ？」

僕があきれ顔でそう返す。

「やっぱり冬になると質量保存の法則がネックになってくるのかなあ、サダコレくん？」

「…は？」

おばあちゃんは僕に何が言いたいんだ？僕は必死に考えた。だがいくら考えてもおばあちゃんの顔にあるイボが気になる。気になるんだよ。

僕はおばあちゃんの顔にあるイボのことを『世界に一つだけの花』と呼んでいる。

おばあちゃんは、

「その呼び方はやめてよサダコレくん！」と言っが、まんざらでもなさそうだ。

おばあちゃんはテンションが上がると懸垂、又は腕立て伏せを始めるクセがある。

そのかいもあってかワキガだ。それもかなりの！

そのワキガの封印を抑えているのが、そのイボってわけさ！

へへっ！

なかなか物知りでしょ？

誉めていただきたい！やめてくれ！

情緒不安定に乾杯だ！

「誰ですかっ！？サダコレくんのおばあちゃんに噛まれたら、ゾン

ビになるなんて事を言う子は！先生、そんな言葉許しませんよっ！」

先生は僕をかばってくれたんだ。ありがとう、先生。先生はワキガです。

僕はあの日の先生の言葉を忘れない。

あれからかなりの月日がたち、僕もすっかり二児の父親だ。

今もおばあちゃんは健在で、いつも薄暗い井戸の中から僕を見てくれている。

こわいよ

(後書き)

ひとみ閉じれば

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9470f/>

---

世界に一つだけの馬

2010年12月1日12時13分発行